SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

時事的関心から現象学的関心へ：進化するフッサール・データベース

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 静岡大学人文学部
	公開日: 2012-11-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 浜渦, 辰二
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006872

時事的関心から現象学的関心へ
――進化するフッサール・データベース――

浜　渦　辰　二

1．時事的な関心から

内分泌攪乱化学物質、いわゆる環境ホルモンが、新聞・雑誌・テレビなどのマスコミを騒がせている。人間が作り出し、環境のなかに垂れ流しにしてきた化学物質が、生物に対してホルモン様に（疑似ホルモンとして）作用し、体内で微妙なバランスをとっているホルモンの働きを攪乱してしまう。その与える影響は、特に生物の発生・発達期においては深刻なものとなる。何よりもセンセーショナルな話題となっているのは、火付け役となった『奪われし未来』(1)という本の題名が象徴しているように、この環境ホルモンが生体の生殖機能を破壊し、子孫を残せなくなってしまうということである。しかも、この環境ホルモンは50メートルのプールに一滴の化学物質が落とされるだけという微量で働き、直接生体そのものに対して死をもたらしたり、がんを誘発したりするよりも、むしろ、次の世代にじわじわと見えない形で影響を与えるという点で、これまでにない新しい意味での環境破壊と言わねばならない。そして、この生殖異常という事態はすでに人間にまで及んでおり、40代の男性よりも20代の男性の方が精子の数が少ないという調査結果も報告されている(2)。また、その影響は、生体の生殖系のみならず、免疫系統にも及び、最近の子供に多いアトピーの原因もここにあるのではないか、という指摘もある(3)。

しかし、いまここで注目したいのは、この環境ホルモンが人間に与える影響として、生殖系・免疫系だけでなく更には、脳に与える影響すら指摘されているということである。とくに胎児・乳児が誕生・発達期に環境ホルモンに晒されると、それは脳の発達に影響を与え、ストレスの原因、あるいはストレスに対する耐性を弱くし、ひいては他の個体への攻撃性を強める原因となることが

マウスの実験によっても証明されているとのことである。同じような因果関係を人間において証明することは難しいが、同様の影響が人間にも及ぶことは充分推測される。そこから、例えば立花隆は、「環境ホルモンが、現代社会に蔓延する異常性欲や暴力行動などの様々な社会的現象にも影響を与えているのではないか」[4]と問題提起し、酒鬼薔薇聖斗の事件を初めとして、このところ頻発している少年犯罪、バタフライナイフを使った少年達の事件、「キレる」という言葉に象徴される事件、これらの原因に、これら子供達の世代が環境ホルモンに汚染されていることを指摘している[5]。確かに、従来いじめ問題や校内あるいは家庭内暴力の問題について、教育・学校・教師に原因があるとか、親・家庭・地域に原因があるとか、いろいろな指摘が行われてきたが、このところ頻発しているこうした事件を見ていると、そういうことではもはや説明がつかないのではないか、と思っていた人は多いだろう。そこへ環境ホルモンという要因をもってくると、これまでいま一つピースが欠けていてどうしても解けなかったパズルが一挙に解けてくるような気がするのである。

もちろん、このように「キレる」少年達の事件の背景として環境ホルモンを指摘する立花も、単純にこれだけですべて説明がつく、すべての原因は環境ホルモンにある、などと主張するつもりはあるまい。こうした少年犯罪事件、あるいは、以前から議論されている校内暴力やいじめの問題も含め、これらは言うなれば「複合汚染」とでも呼ぶべきものであり、いろいろな要因が絡み合っていると言わねばなるまい。個々の教師の質の問題もあれば、教育制度全般の問題もある。家庭の問題、母親や父親のあり方の問題もあれば、兄弟関係の問題もある。学校における友人関係の問題や地域における人間関係の問題もあれば、社会全体のあり方の問題もある。さまざまな要因が複雑に絡み合って生じてきている問題と言わざるを得ないのである。しかし、そういう「複合汚染」の状況のなかで、環境ホルモンという要因も重要な要因の一つとして考慮しなければならない、というのが立花の主張であろう。すべてを環境ホルモンで説明できるというわけではないが、環境ホルモンが与える影響も重要なものとして考えて欲しい、ということであろう。それは分からないわけではない。確かに、これから研究するに値する課題であるだろう。

しかし、である。その重要性を認めたうえで、それでも、このように「キレる」と呼ばれる異常行動の原因を、脳に働く化学物質に求め、環境ホルモンの影響によって説明する、という議論の流れに対しては、やはり留保を呈したい。と言っても、私が言いたいのは、「時に専門家の認識も飛び越えるようなこと

まで流布されている」とか、「少なくともヒトに関して、『環境ホルモン』問題はまだ仮説の段階だ」[6]と、立花の勇み足をたしなめる慎重論を主張したいのではない。実際、『奪われし未来』の著者達も、環境ホルモンを「攻撃性の元凶」(邦訳、p.56)として考えようとし、その影響として「免疫障害と、特に左右前頭葉の機能障害が確認されている。……前頭葉に異常が生じると、注意、情緒、動機づけに支障が出るために、思考プロセスにも間接的に影響が及ぶ」(p.181)と述べ、そこから、「ふつうであればどうということはないストレスにも耐えられなくなっていたり」(p.253)、「過剰反応」や「行動および神経障害」(p.290)が現れるという。しかし、「合成化学物質にさらされた動物は攻撃的になる」(p.348)と言いつつも、「ホルモン・メッセージの攪乱が、身の回りの人々に見られる不妊症をはじめ、学校で慢性化している学力不振、家庭崩壊、幼児無視や幼児虐待、社会に蔓延する暴力などとどのくらい関連しているのか?」(p.342)については問いの形で提起し、あるいは、「家庭崩壊、幼児無視、幼児虐待、学校の内外での増加の一途をたどっている暴力」(p.346)の原因を環境ホルモンとすることについては、かなり慎重な疑問形で表現している。しかし、私が言いたいのは、このような因果関係についてはまだ証明されていないのだから慎重に論じるべきだ、ということなのではない。

むしろ、上のような議論をするときの立花の前提に対して留保を呈したいのである。すなわち、立花隆は、このように異常行動の原因として環境ホルモンを指摘する際、「いまでは古典的な考え方はほとんど崩れていて、頭がおかしくなるというのは、結局はケミカルな現象だということになってきた。脳味噌というのはケミカルマシンですから、ケミカルなプロセスがいちばん問題なんです」[7]と言う。これは、数年来の脳についての研究から立花隆が導いた結論である。確かに、西暦2000年までの10年間が「脳の10年間」と呼ばれるように、現在、脳についての研究はめざましい進歩を遂げており、そのなかで、神経伝達物質とされる脳内化学物質の働きが注目を浴びている。しかし、「心」の問題を考えようとするとき、この科学主義とも呼ぶべき研究姿勢には簡単に与することはできない。立花はこの十年ほど、『脳死論』を初めとして、『臨死体験』、そして『脳を究める』と、脳についての研究の最前線を踏査してきた[8]。その姿勢は決して、単純で頑な科学万能主義ではなかったが、にもかかわらず、彼は科学主義の呪縛から逃れることができていないように私には思われる。彼の『脳死論』も、この科学主義に災いされて、人間の死を単なる個体の死として捉えてしまっているように思われる。人間を単なる個体としてではなく、ポ

リス的動物、関係的存在として捉えるとき、脳死の問題ももっと違った論点が浮かび上がってくるように思われる[9]。立花自身、そこの辺りの問題を感じつつも[10]、科学主義に災いされて、結局は、脳死と臓器移植の問題を論ずるにあたって、脳死判定基準の技術的な問題に焦点を絞りすぎてしまったように思われるのである。

そのような立花であるからこそ、いま環境ホルモンの問題でも、「脳はケミカル・マシンである」と発言することになる。しかし問題は、「脳はケミカル・マシンである」としても、だから「心」もまたケミカルに決定（規定）されるということになるのか、ということであろう。いわば、ハードがケミカルだからと言って、ソフトもケミカルだとか、ケミカルに決定（規定）されるということになるのか、ということである。確かに、脳のケミカルな異常から引き起こされる「心の異常（病い）」もある。伝統的な区分で言えば、「外因（身体的器質的障害による）」と呼ばれてきたものに属する。しかし、すべての「心の病い」が「外因」に帰せられるわけではない。現代の脳科学は、従来「心因（心的外傷やストレスの蓄積などによる）」と呼ばれてきたものも、「内因（外因でもなければ、心因でもなく、何らかの器質的障害が予想されるが、まだ分かっていない）」と呼ばれてきたものについても、脳内のケミカルな過程から説明しようとしている。しかし、まだまだ分かっていないことも多いのである[11]。ところが、ここで立花は、脳から心への一義的関係を想定する側にいつのまにか立ってしまっているように思われる。哲学においては古くから議論されたいた脳（あるいは身体）と心の関係について、やすやすと一つの立場をとってしまう[12]。あるいは、「心の異常（病い）」を脳のケミカルな過程から説明するという、これまた、「心の病」の原因が求められる時の一つの特定の立場をやすやすととってしまうように思われるのである[13]。

さて、私が数年来、研究に携わってきた現象学の考え方は、見方によっては、まさにそういう考え方と戦ってきた、と言うことができる。と言っても、現象学はそういう言わば自然科学的生物学的な説明を否定しようとするのではない。こうした説明はそれなりに有効な場面はあるであろう。しかし、「心（精神）」の問題、そして「心の病」の問題は、そのような説明で片づいてしまうわけにはいかない、そこに現象学の問題意識があったと言ってよい。例えば、精神分裂病についても、前述のように、外因でもなければ、心因でもなく、内因という言い方がされてきた。その時にも、内因については、一方の遺伝説（すなわち、遺伝子異常によるもの）と他方の環境説（すなわち、家族を含めた人間関

係によるもの）を両端としてさまざまな説が展開されてきたが[14]、ウイルス原因説や遺伝子異常原因説、すなわち、結局は自然科学的に身体的原因を求めようとする説が繰り返しさまざまな形をとって現れてきた。ちょうど、エイズのウイルスが発見されたように、あるいは、ダウン症が遺伝子異常と言われるようになったように、精神分裂病もやがてそのような身体的原因が発見されるであろう、という考えは根強く存続している。そこに更に、分裂病はまだはっきりその場所の特定はされないにしても、いずれかの脳の疾患であり、あるいは、神経伝達物質ドーパミンの異常であるというドーパミン説が加わって来た。

しかし、問題は、このような身体的原因が見つかったとして、それによって確かに薬物的治療への道が可能になるかも知れないが[15]、それによって患者（クライアント）自身をよりよく理解できるようになるだろうか、という点にある。患者（クライアント）自身の心のうちにどれだけ入っていくことができるか、すなわち、彼（彼女）がどのような世界を見て、どのように世界を了解し、生きているか、それをどこまで理解できるか、それが重要な問題なのではないか。これが現象学が提起しようとした問題であった。こう考えるとき、前述の環境ホルモンの与える影響は確かに重要な問題であるが、だとしても、環境ホルモンによって影響を受けた少年達がどのような世界に生きているのか、それを言わば内側から理解していこうとする道は、環境ホルモンの化学的説明だけでは何の手掛かりともならないのである。ここに、いま一度、彼らの心の内側から理解していこうとする現象学的なアプローチが重要になってくるように思われる。しかし、このような考察については別稿に譲らざるを得ない[16]。

さて、以上のような状況のなかで、現象学の創始者であるフッサールがどのように自然科学的な人間へのアプローチ（あるいは、「意識の自然化」）に対して現象学的考察を対置させていったかを探究するのは有意義な課題であるだろう。このような観点からいま一度、フッサールのテキストへ戻って問題を考え直す価値はあろう。その時、私たちがここ4年間、その制作と公開に携わってきたフッサール・データベースの価値が再発見されていくことになろう。ここで、話題を転じて、このフッサール・データベースの最新の状況について報告することにしたい。

2．進化するフッサール・データベース

1994年度から始まったフッサール・データベース制作とインターネットによる公開は、昨年度（1997年度）までで４年間の作業を完了し、『フッサール全集』全巻（現在までのところ、30巻刊行されている）についてのデータを作成するという当初の計画に向けて、毎年ほぼコンスタントに作業を完了してきており、昨年度までで計画のおよそ３分の２を完成することになった。計画としては、あと２年間で全巻すべてのデータが揃い、完成することになる。

（１）新しい６つの巻

現在（1998年４月現在）までに完成している巻の内訳を言えば、『フッサール全集』の第１～８巻、第10～11巻、第13～16巻、第18～19巻、第21～23巻、第25巻、第27巻、および第29巻（合計23巻分）であるが、そのうち、今回昨年度の作業の成果として新しく完成したのは、第６～８巻、および第18巻、第19／1巻、第19／2巻の計６巻分である。昨年度の作業で底本に使ったテキストは次のものである。

[1] Bd. VI Die Krisis der europäischen Wissenschaften und die transzendentale Phänomenologie, hrsg. von Walter Biemel, 1976〔『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』〕

[2] Bd. VII Erste Philosophie (1923/24), Erster Teil, Kritische Ideengeschichte, hrsg. von Rudolf Boehm, 1956〔『第一哲学 I』〕

[3] Bd. VIII Erste Philosophie (1923/24), Zweiter Teil, Theorie der phänomenologischen Reduktion, hrsg. von Rudolf Boehm, 1959〔『第一哲学 II』〕

[4] Bd. XVIII Logische Untersuchungen, Erster Band, Prolegomena zur reinen Logik, hrsg. von Elmar Holenstein, 1975〔『論理学研究第Ｉ巻』〕

[5] Bd. XIX/1 Logische Untersuchungen, Zweiter Band, Erster Teil, Untersuchungen zur Phänomenologie und Theorie der Erkenntnis, hrsg. von Ursula Panzer, 1984〔『論理学研究第II/1巻』〕

[6] Bd. XIX/2 Logische Untersuchungen, Zweiter Band, Zweiter Teil, Untersuchungen zur Phänomenologie und Theorie der Erkenntnis, hrsg. von Ursula Panzer, 1984〔『論理学研究第II/2巻』〕

（２）検索語の倍増

しかし、昨年度は、単純に新しい６つの巻についてこれまでと同じ作業をした、というわけではない。まず第一に、これまでは検索語として466語を使ってきたが、これを一挙に1,004語へ倍以上に増やした。すでに旧稿で紹介してきたように[17]、わたしたちの公開しているフッサール・データベースは、原文のテキストそのものではなく、わたしたち共同研究者[18]が厳選した検索語（フッサール研究にあたって不可欠のキーワード）についての検索結果を集めたものである。これについては、すでに旧稿で書いてきたように、利用者の要望に応じてデータを増やすことができるということで、現に多くの要望に応えて、新しいデータを個別に電子メールで送るというサービスも行ってきた。しかし、根本的にもっと検索語を大量化したほうがよい、というアドバイスも数人の利用者から受けており、今回はそうした要望に応えることになった。再度、共同研究者達とともに検討を重ね厳選した結果、以下に掲げる1,004語が選ばれることになった（しかし、これによってもフッサール・データベースが旧稿[19]で述べたように言わば「生ける増殖するコンコルダンス」であるという点に変わりはない）。参考のため、全語を掲げておこう。

_a priori
_abbild*
_abschattung*
_absolut*
_abstraktion*
_abstraktions*
_abwandlung*
_ada~quat*
_ada~quation*
_affektion*
_a~hnlichkeit*
_akt*
akt
_aktion*
_aktiv*
_aktivita~t*
_aktqualita~t*
_aktualita~t*
_aktuell*
_algebra
_alleinheit*
_allgemein*
_allgemeinheit*
_allheit*
_allta~glich*
_allzeitlich*
_als-ob
_alter ego
_an sich
_analogon*
_analyse*
_analysis*
_analytik
_analytisch*
_anderer*
_anfang*
_anfa~nger*
_animalisch*
_anonym*
_anormal*
_anormalita~t*
_anschauen*
_anschaulichkeit*
_anschauung*
anschauung
_an-sich
_ansichsein
_anthropologie
_anthropologismus
_antizipation*
_anzahl*
_anzeichen
_anzeige*
_apodiktisch*
_apodiktizita~t*
_apophansis*
_apophantik*
_apparenz*
_apperzeption*
_apperzeptiv*
_apperzipier*
_appra~sentation*
_appra~sentativ*
_appra~sentier*
_apprehension*
_approximation
_apriori
_arbeit*
_arithmetik
_art*
_aspekt*
_assertorisch*
_assoziation*
_assoziativ*
_a~sthetik
_auffassung*
_auffassungs*
_aufkla~rung*
_aufmerksamkeit*
_aufweis*
_ausdehnung*
_ausdruck*
_auslegung*
_aussage*
_ausschalt*
_ausschaltung*
_aus~enhorizont
_ausweis*
_autonomie*
_axiologi*
_axiom*
_bedeuten*
_bedeutsam*
_bedeutung*
_begriff*
_begru~ndung

__beruf*
__beschreibung*
__beseel*
__besinnung*
__bestimm*
__betrachter*
__bewa~hrung*
__bewegung*
__beweis*
__bewus~tsein
*bewus~tsein
__bewus~tseinsakt*
__bewus~tseinsanalyse*
__bewus~tseinseinheit*
__bewus~tseinserlebnis*
__bewus~tseinsfeld*
__bewus~tseinsflus~
__bewus~tseinsfluss*
__bewus~tseinshorizont*
__bewus~tseinsleben
__bewus~tseinsleistung*
__bewus~tseinsspha~re*
__bewus~tseinsstrom
__beziehung*
__bild
__bildbewus~tsein
__bildlich*
__blick*
__boden
*boden
__cartesianismus
__charakter*
__cogitata
__cogitatio
__cogitatum
__cogito
__dahingestellt*
__darstellung*
__dasein
__daten
__datum
__dauer
__deckung*
__deduktion*
__definit*
__denken
__deskription*
__deskriptiv*
__deutlichkeit*
__deutung*
__dialektik*
__ding*
__dingerfahrung*
__dingwahrnehmung*
__dingwelt*
__disziplin*
__dogmatisch*
__dogmatismus
__doxa
__doxisch*
__dualismus
__durchstreichung*
__ego
__ego cogito
__ego sum
__egologie
__egologisch*
__eidetik
__eidetisch*
__eidos
__eigenes
__eigenheit*
__eigenheitsspha~re*
__eigenname*
__eigenwesentlich*
__einbildung*
__einfu~hlung*
__einfu~hlungsgemeinschaft*
__einheit*
__einigung*
__einklammer*
__einklammerung
__einsamkeit*
__einsames Seelenleben
__einsehen*
__einseitig*
__einsicht*
__einstellung*
__einstellungsa~nderung*
__empfindnis*
__empfindung*
__empfindungsdat*
__empirisch*
__empirismus
__entta~uschung*
__episteme
__epoche*
__erb*
__erde
__erfahren*
__erfahrung*
__erfahrungswelt
__erfahrungswissenschaft*
__erfassen*
__erfassung*
__erfu~llen*
__erfu~llung*
__erinnerung*
__erkennen*
__erkenntnis*
__erkenntniskritik*
__erkenntnistheorie
__erkla~ren*
__erkla~rung*
__erleben*
__erlebnis*
__erlebnisstrom*
__erschauen*
__erscheinen*
__erscheinung*
__erste*
__erwartung*
__erwerb*
__erzeugung*
__ethik*
__etwas
__europa*
__evident*
__evidenz
__exakt*
__existenz*
__explikation*
__faktizita~t*
__faktum
__falsch*
__feld*
feld
__fiktion*
__fiktiv*
__fiktum
__fliess*
__flus~*
__form*
__formal*
__formalisierung*
__formenlehre*
__forschung*
__frage*
__fremdapperzeption*
__fremdbewus~tsein
__fremde*
__fremderfahrung*
__fremdheit*
__fremdwahrnehmung*
__fremdwelt
__fu~lle*
__fundament*
__fundier*
__fundierung
__fungier*
__funktion*
__funktiona~r*
__fu~r-sich*
__ganz*
__gattung*
__gebilde*
__gedanke*
__gefu~hl*
__gegeben*
__gegebenheit*
__gegebenheitsweise
__gegenstand*
__gegensta~nd*
__gegensta~ndlich*
__gegensta~ndlichkeit*
__gegenwart*
__gegenwa~rtig*
__gehalt*
__geist*
__geisteswelt*
__geisteswissenschaft*
__geistig*
__geistige Welt
__geltung*
__gemeingeist*
__gemeinschaft*
__gemeinschaftsbewus~tsein
__gemeinschaftsleben
__gemeint*
__gemu~t*
__general*
__generation*
__generativ*
__genese*
__genesis
__genetisch*
__geometrie*
__gesamt*
__geschehen*
__geschichte*

__geschichtlichkeit
__gesellschaft*
__gesetz*
__gestalt*
__gestaltqualita~t*
__gewis~heit*
__glaube*
__glaubens*
__gleichheit*
__gott*
__grammatik*
__grenze*
__grund*
__grundwissenschaft*
__gu~ltig*
__habitualita~t*
__habituell*
__habitus
__handeln*
__handlung*
__heimat*
__heimwelt*
__hintergrund*
hintergrund
__hintergrundbewus~tsein
__historisch*
__historizita~t
__hof*
__horizont*
horizont
__horizontbewus~tsein
__horizontintentionalita~t
__humanita~t*
__hyle*
__hypothese*
__ich
Ich
Ich*
__ich kann
__ich-Mensch
__ichlich*
__ichpol*
__ideal*
__idealisierung
__idealismus
__idealita~t
__idealwissenschaft*
__ideation
__idee*
__identifikation*
__identifizierung*
__identita~t*
__imagination*
__imaginativ*
__immanent*
__immanenz*
__implikation*
__impression*
__inada~quat*
__inaktualita~t*
__inaktuell*
__inbegriff*
__index*
__individual*
__individuation*
__individuell*
__individuum
__induktion*
__ineinander
__inexistenz*
__infinit*
__inhalt*
__innen*
__inner*
__innenhorizont
__innerlichkeit
__in-sich*
__instinkt
__intention*
__intentional*
__intentionalita~t
__interesse*
__intersubjektiv*
__intersubjektivita~t*
__intuition*
__intuitionismus
__intuitiv*
__invarianz
__irrationalismus
__irrationalita~t
__irrealita~t
__irreell*
__iterati*
__jedermann*
__jetzt
__kategorie*
__kausal*
__kausalita~t*
__kern*
__kina~sthese
__kina~sthetisch
__klarheit*
__kla~rung*
__klasse*
__koexistenz*
__kollektion*
__kollektiv*
__kolligieren*
__kommunikation*
__komplex*
__kompossib*
__konditional*
__konkretion*
__konkretum
__konsequenz*
__konstituier*
__konstitution*
__konstitutiv*
__konstruktion*
__konstruktiv*
__kontinuita~t
__kontinuum
__kontrast
__ko~rper
__ko~rperlichkeit*
__korrelat*
__korrelation*
__krisis
__kritik*
__kultur*
__kulturwelt*
__kulturwissenschaft*
__kundgabe*
__kundnahme*
__kunst*
__lage*
__leben
*leben
__lebens*
__lebendige Gegenwart
__lebensgemeinschaft*
__lebensphilosophie
__lebensumwelt*
__lebenswelt*
__lebenswelt1ich*
__leer*
__leib*
__leibhaft*
__leibko~rper
__leiblichkeit
__leisten*
__leistung*
__leitfaden
__liebe*
__limes
__logik
__logisch*
__logos
__mannigfaltigkeit*
__material*
__materie*
__mathematik
__mathematisierung*
__mathesis
__medium
__mehr*
__meinen*
__meinung*
__menge*
__mengen*
__mensch*
__menschen*
__menschengemeinschaft*
__menschen-Ich
__menschentum
__menschheit*
__metaphysik
__metaphysisch*
__methode*
__mit*
__miteinander
__mitfungierend*
__mitgegebenheit*
__mitkonstituierend*
__mitmensch*
__mitsubjekt*
__mitteilung*
__mittelbarkeit*
__modalisierung*
__modalita~t*
__modifikation*
__modus
__mo~glichkeit*
__moment*
__monade*
__monaden*
__monadengemeinschaft*
__monadologie
__morphe*
__morphologie

__motiv*
__motivation*
__motivier*
__mundan*
__mythisch*
__mythos
__nachverstehen*
__naiv*
__naivita~t
__name*
__natur*
__natural*
__naturhaft*
__natu~rlich*
__naturalisierung*
__naturalismus
__naturalistisch*
__naturwissenschaft*
__nebenmensch*
__nennung*
__neukantianismus
__neutral*
__neutrarisier*
__neutrarita~t*
__neuzeit
__nicht*
__niederschla*
__noema
__noematisch*
__noes*
__noetik*
__noetisch*
__nominalisier*
__nominalismus
__norm*
__normal*
__normalisier*
__normalita~t*
__notwendigkeit*
__nullpunkt
__objekt*
__objektiv*
__objektivation*
__objektivierung*
__objektivismus
__objektivita~t
__offenbarung*
__ontologie
__ontologisch*
__operation*
__operier*
__ordinalzahl*
__ordnung*
__organisation*
__orientierung*
__original*
__originalita~t*
__originalspha~re
__origina~r*
__originarita~r*
__originarita~t
__paarung*
__paradox*
__passiv*
__passivita~t
__person*
__personal*
__personalita~t*
__perso~nlich*
__perspektive*
__perspektivier*
__perzeption*
__perzeptiv*
__pha~nomen*
__pha~nomenal*
__pha~nomenalismus
__pha~nomenologie
__pha~nomenologisch*
__phantasie*
__phantom*
__philosoph
__philosophie
__philosophier*
__physik
__physikalismus
__physiologi*
__physisch*
__pluralisier*
__pol*
__position*
__positional*
__positivismus
__positivita~t*
__potentialita~t
__potentiell*
__pra~dikat*
__pra~dikation*
__pra~-empirisch*
__pra~empirisch*
__pra~sentation*
__pra~senz*
__pra~sumtion*
__praktisch*
__praxis
__primordial*
__primordialita~t
__primordialspha~re
__primordinal*
__prinzip*
__protention*
__prozes*
__psychisch*
__psychologie
__psychologisch*
__psychologisier*
__psychologismus
__psychophysik
__psychophysisch*
__qualita~t*
__quasi*
__quelle
__radikal*
__radikalismus
__rational*
__rationalisier*
__rationalismus
__rationalita~t
__ra~tsel
__raum
__raumzeit*
__raumzeitlichkeit
__reaktivier*
__real*
__realisier*
__realismus
__realita~t*
__rechnen*
__rechtfertigung*
__rede*
__reduktion*
__reell*
__reflektier*
__reflektiv*
__reflexion*
__reform*
__regel*
__region*
__regional*
__reich*
__reihe*
__rein*
__reinheit*
__relation*
__relativismus
__relativita~t
__religion*
__repra~sentant
__repra~sentation*
__reproduktion*
__res extensa
__residuum
__retention*
__retentional*
__rezeptiv*
__rezeptivita~t
__richtigkeit*
__ru~ck*
__sach*
__sache*
__sachverhalt*
__satz*
__schauen
__schein*
__schicht*
__schichtung*
__schlus~*
__sediment*
__seele*
__seelenleben
__seelisch*
__sehen
__seidend*
__sein
__seins*
__seinssetzung*
__seinssinn*
__seinsspha~re*
__seinsweise*
__selbst
__selbstapperzeption*
__selbstauslegung*
__selbstbesinnung*
__selbstbewus~tsein
__selbsterfahrung*
__selbsterfassung*
__selbsterkenntnis
__selbstgebung*
__selbstgegebenheit*
__selbsthabe*
__selbstheit*

__selbstkonstitution*
__selbstobjektivation*
__selbstobjektivierung*
__selbstverantwortung*
__selbstversta~ndigung
__selbstversta~ndlichkeit*
__selbstversta~ndnis*
__selbstwahrnehmung*
__sensualismus
__setz*
__setzung*
__signifikation*
__sinn
__sinn*
__sinnes*
__sinngebung*
__sinnlichkeit*
__situation*
__solipsismus
__somatologi*
__sozial*
__spezies
__spha~re*
__spontan*
__sprache*
__sprachgemeinschaft*
__standpunkt*
__statisch*
__stellungnahme*
__stiftung*
__stil*
__still*
__stoff*
__streben*
__streng*
__strom
__stro~m*
__struktur*
__stu~ck*
__stufe*
__subjekt*
__subjektiv*
__subjektivismus
__subjektivita~t
__substanz*
__substraktion*
__substrat*
__substruktion*
__sukzession*
__syllogistik
__symbol*
__syntaktisch*
__syntax*
__synthes*
__synthetisch*
__system*
__ta~tigkeit*
__tatsache*
__tatsachen*
__ta~uschung*
__tautologie*
__techn*
__teil*
__teleologie
__teleologisch*
__telos
__termin*
__them*
__thematisch*
__theologie*
__theoretisch*
__theorie*
__thes*
__thetisch*
__tief*
__tod*
__total*
__totalita~t*
__tradition*
__traditional*
__traditionell*
__transzendent
__transzendent*
__transzendental
__transzendental*
__transzendentalismus
__transzendentalita~t*
__transzendentalphilosophie
__transzendenz*
__trieb*
__tun*
__typ*
__typik*
__typis*
__typus
__u~bertragung*
__u~berzeitlich*
__umfang*
__umgebung*
__umsta~nde
__umstellung*
__umwandlung*
__umwelt*
__umwendung*
__unanschaulich*
__unbestimmt*
__unbewus~t*
__unendlich*
__universal*
__universalita~t*
__universum*
__unmo~glich*
__unselbsta~ndig*
__unsinn*
__unsterblich*
__unstimmig*
__unterschied*
__unthematisch*
__unvereinbar*
__unvernunft*
__unvollsta~ndig*
__ur*
__ur-Ich
__urboden*
__urdoxa
__urglaube*
__urimpression*
__urleib*
__urmensch*
__urmodus
__urnorm*
__uroriginal*
__urpra~senz
__ursprung*
__urspru~nglich*
__urspru~nglichkeit
__ursprungs*
__ursta~tte*
__urstiften*
__urstiftung
__urteil*
__urteils*
__urtu~mlich*
__variation*
__verallgemeinerung*
__veranschaulichung*
__verantwort*
__verbindung*
__vereinbar*
__vereinzelung*
__verflechtung*
__vergangenheit
__vergegenwa~rtig*
__vergegenwa~rtigung*
__vergemeinschaftung*
__vergleich*
__verhalt*
__verha~lt*
__verha~ltnis*
__verknu~pfung*
__verleiblichung*
__vermeinen*
__vermeint*
__vermo~gen*
__vermo~glich*
__vermo~glichkeit*
__vermutung*
__verneinung*
__vernunft
__vernunft*
__vernu~nftig*
__verschieden*
__verschmelz*
__verstand*
__versta~ndlich*
__verweisung*
__verworren*
__viel*
__vielheit*
__vollkommen*
__vollsta~ndig*
__vollzug*
__voraussetzung*
__voraussetzungslosigkeit*
__voraussicht*
__vordeutung*
__vorerinnerung*
__vorerwartung*
__vorgegeben*
__vorgegebenheit*
__vorhanden*
__vorgezeichnet*
__vormeinung*
__vorstellen*
__vorstellung*
__vorstellungs*
__vorurteil*
__vorurteilslosigkeit
__vorwissenschaftlich*
__vorzeichn*

_wach*
_wahr*
_wahrhaft*
_wahrheit*
_wahrheits*
_wahrnehm*
_wahrnehmung*
_wahrnehmungs*
_wahrscheinlich*
_wahrscheinlichkeit*
_walten*
_wandel*
_wandlung*
_wechsel*
_weck*
_welt*
_welt-Boden
_weltall
_weltanschauung*
_weltapperzeption*
_weltauffasuung*
_weltausschaltung*
_weltbetrachtung*
_weltbewus~tsein*
_welterfahrung*
_welterkenntnis*
_weltform*
_weltganzes
_weltgeltung*
_weltgewis~heit*
_weltglaube*
_welthorizont*
_weltkonstitution*
_weltleben
_weltlich*
_weltlichkeit
_weltpha~nomen*
_weltvorstellung*
_weltwahrnehmung*
_weltwissenschaft*
_weltzeit*
_wende*
_wert*
_wesen
_wesenheit*
_wesens*
_wesensanschauung*
_wesensdeskription*
_wesenseinsicht*
_wesenserfassung*
_wesenserkenntnis*
_wesenserschauung*
_wesensform*
_wesensforschung*
_wesensgesetz*
_wesensintuition*
_wesenslehre*
_wesensnotwendigkeit*
_wesensschau*
_wesensspha~re*
_wesensstruktur*
_wesensverallgemeinerung*
_wesenswissenschaft*
_wesenszusammenhang*
_widersinn*
_widerspruch*
_widerstreit*
_wiedererinnerung*
_wille*
_willens*
_wir-*
_wirklich*
_wirklichkeit*
_wirklichkeits*
_wissenschaft*
_wissenschaftlich*
_wissenschafts*
_wissenschaftslehre*
_wissenschaftstheorie*
_wort*
_zahl*
_zahlbegriff*
_za~hlen*
_za~hl*
_zeichen
_zeichen*
_zeig*
_zeit
_zeit*
_zeitbewus~tsein
_zeitigung*
_zeitlichkeit
_zeitstrom*
_ziel*
_zufa~llig*
_zukunft
_zukunft*
_zuordnung*
_zusammenhang*
_zuschauer
_zustand*
_zusta~ndlich*
_zuwendung*
_zweck*
_zweifel*
_zweifelhaftig*
_zweifellosig*
_zweifels*

（3）公開方式の変更

しかし、今回新しいデータをこのように追加するにあたって、検索語を増やしたことによって単純にデータが増えたというだけではなく、更に、インターネットを利用した公開方法にも新しい工夫を導入した。

それは、どういうことかと言えば、4年前から始まったフッサール・データベースの公開にあたっては、静岡大学情報処理センター（浜松）のユニックス・マシーンに登録したanonymous ftp（ftpのアドレスは、ftp. ipch. shizuoka. ac. jp）を利用してきたが、今回からはデータを静岡大学情報処理センター分室（静岡）のユニックス・マシーンに登録したWWWのディレクトリー（ホームページのURLは、http://www.ipcs.shizuoka.ac.jp/~jsshama/HUA-home. html）上に保存することにした。とりあえず、今回公開する第6～8巻、第18、第19／1、第19／2巻のデータについては、この方法を導入したが、それ以外の従来のデータはこれまで通りanonymous ftpに入っている。これ

らについても、順次WWW化することを計画しているが、当分の間は二つの方式が併存することになる。

これまでフッサール・データベースは、データそのものについては基本的にはanonymous ftpを使って公開し、データについてのさまざまな説明をする導入部分としてのみWWWを使ってきた。この方法は、ftpのみを使うことを考えれば、多くの人にとって利用しやすいものであった。しかし、利用者の使っているWWWブラウザの種類により、あるいは、WWWへの接続の仕方（ＬＡＮを使って接続しているか、パソコン通信を使って接続しているか）によって、WWWからftpに入っていけない利用者もあった。今回データそのものもWWWを使って公開する方法をとった理由の一つは、このようにftpに入っていけない利用者にも利用できるようにということであったが、それとともに、データの公開方法をこのように基本的にWWWにだけで済むものとしたことは、利用者にとってはより使いやすいものとなった。希望のデータをどんどんクリックして探していけばいい、ということになったからである。

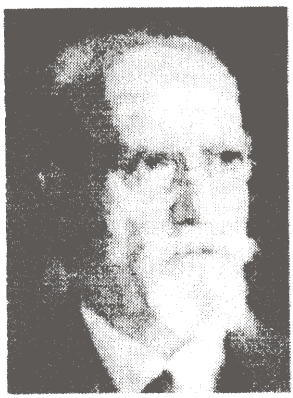
また、それに伴って、これまでは "a" で始まる検索語についてのデータ、"b" で始まる検索語についてのデータ、とそれぞれのグループを一つのファイルにしていたが、一つの検索語ごとにすべて別のファイルとすることにした。これによって、利用者は自分の欲しいデータのみを選択して取り出すことができるようになった。

以上のような公開方法を具体的に理解していただくために、少しサンプルを用意した。例えば、フッサリアーナ第6巻のなかで "a priori" という語がどれほど使用され、またどこで使用されているかを検索したいという例に即して画面を見てみよう。画面1は、フッサール・データベースのホームページである。ここから「フッサール・データベースへ」をクリックすると画面2が現れる。ここで、これまで公開してきた巻、例えば第1巻のデータであれば、第1巻のところをクリックすると、画面3のようにftpのディレクトリーの画面が現れ、ここから希望の "a priori" という語が収められた "a.dat" というファイルをダウンロードすることになる。これが従来の公開方法である。しかし、今回新しく導入した方法を使った例えばいまの第6巻の場合、画面4のようなページが現れる。ここから、まず、「本文についての全ての検索語の出現回数」を選択してクリックすれば、すべての検索語についての出現回数を表示する画面5が現れ、そのなかに希望の "a priori" という語も25回と表示されているのが分かる。また、画面4で「本文についての各検索語の出現箇所」を選択し

てクリックすれば、画面6のようなアルファベットの表が現れる。これは、それぞれ"a"で始まる検索語についてのデータ、"b"で始まる検索語についてのデータ、等々に入っていくための入口を示している。いまは、"a priori"であるから、"a"を選択してクリックすれば、画面7のような"a"で始まる検索語の表が現れる。ここで目的の"a priori"を選択してクリックすれば、画面8のような"a priori"という検索語のこの巻での出現箇所を5桁の数字（前3桁が頁数、後2桁が行数）で示す頁が現れる。後は、原本であるフッサーリアーナ第6巻が手元にあれば、その前後の脈絡も掴むことができるという次第である。

画面1

フッサール・データベースへようこそ



Go to: English Version.

- フッサールって誰？
- フッサール・データベースって何？
- フッサール・データベースへ
- フッサール・データベースの紹介文
- 日本におけるフッサール研究文献一覧 NEW
- 関連する哲学関係のサイトへ
- 利用者登録

Started from: 1. April, 1996
Last Updated: 1. April, 1998 NEW
Copyright: フッサール・データベース作成委員会

このページを運営しているのは、浜渦辰二（*jsshama@hss.shizuoka.ac.jp*）です。

画面 2

フッサール・データベースへの入口

従来、フッサール・データベースの公開にあたっては、anonymous ftpを利用してきましたが、今回（1998年4月）よりデータをWWW上に保存し、利用しやすくすることにしました。とりあえず、今回公開する第6〜8巻、第18、19-1、19-2巻のデータについては、WWW上に保存することにしましたが、それ以外の従来のデータはこれまで通りanonymous ftpに入っています。これらについても、順次WWW化することを計画しております。そのため、以下の各巻のデータについて、WWWに保存されているか、anonymous ftpに保存されているかによって、表示の仕方が異なりますので、ご留意ください。

また、今回公開する第6〜8巻、第18、19-1、19-2巻のデータについては、一部まだ工事中のところがあります。万一、データが表示されない場合は、数日後に再度挑戦してみてください。

なお、WWW化されている巻（第6〜8巻、第18、19-1、19-2巻）については、データの一部にドイツ語特有の文字がありますので、WWWブラウザのメニューのOptions（あるいは、「表示」）のDocument Encoding（あるいは、「文字コードセット」ないし「フォント」）で、Western（あるいは、「欧米」）を選択しておいてください。

注意！

フッサール・データベースへすすむ前に、「フッサール・データベースとは何か？」のページにある解説文（利用規程など）をまだ読んでいない方は、それらを先に通読してください。それらを読み終わってから、以下のフッサール・データベースの各巻のデータへと進んでください。

第1巻	第2巻	第3巻	第4巻	第5巻
第6巻	第7巻	第8巻	第10巻	第11巻
第13巻	第14巻	第15巻	第16巻	第18巻
第19-1巻	第19-2巻	第21巻	第22巻	第23巻
第25巻	第27巻	第29巻		

ホームページへ戻る

画面 3

Current directory is /HUA/dat/hua_01

```
#################################################################
#                Welcome to Anonymous FTP Server                #
#          Shizuoka Univ. Information Processing Center         #
#################################################################
```

Up to higher level directory

a.dat	23	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
anmerk.dat	1	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
b.dat	3	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
c.dat	1	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
d.dat	2	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
e.dat	16	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
einleit.dat	4	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
f.dat	3	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
g.dat	6	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
h.dat	1	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
i.dat	14	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
inhalt.dat	745	bytes	Sat May 10 00:00:00 1997
j.dat	504	bytes	Sat May 10 00:00:00 1997
k.dat	6	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
l.dat	3	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
list-a.dat	12	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
list-e.dat	12	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
list-t.dat	12	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
m.dat	5	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
minder.dat	10	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
n.dat	3	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
o.dat	2	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
p.dat	11	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
q.dat	378	bytes	Sat May 10 00:00:00 1997
r.dat	5	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
s.dat	17	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
t.dat	10	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
u.dat	2	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
v.dat	2	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
w.dat	9	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997
z.dat	1	Kb	Sat May 10 00:00:00 1997

第 6 巻の入口

ここから先は、英語表示となります。また、データの一部にドイツ語特有の文字がありますので、その箇所が文字化けします。これを正しく表示させたい時には、WWWブラウザのメニューのOptions（あるいは、「表示」）のDocument Encoding（あるいは、「文字コードセット」ないし「フォント」）で、Western（あるいは、「欧米」）を選択してご覧ください。再び、日本語表示のページに戻る時には、同じOptions（あるいは、「表示」）のDocument Encoding（あるいは、「文字コードセット」ないし「フォント」）で、Japanese (Auto-Detect)（あるいは、「日本語（自動選択）」）を選択してご覧ください。

この巻の目次	本文についての全ての検索語の出現回数	本文についての各検索語の出現箇所（各検索語ごとに別にしています）	注についての全ての検索語の出現回数	注についての各検索語の出現箇所（全検索語を一括してあります）	編者序論についての全ての検索語の出現回数	編者序論についての各検索語の出現箇所（全検索語を一括してあります）

フッサール・データベースへの入口へ戻る

画面 5

```
                    << HUA_06T.IDX >>

#   1:   25 : _a priori
#   2:    2 : _abbild*
#   3:    0 : _abschattung*
#   4:  171 : _absolut*
#   5:   39 : _abstraktion*
#   6:    1 : _abstraktions*
#   7:   27 : _abwandlung*
#   8:    3 : _adäquat*
#   9:    1 : _adäquation*
#  10:   12 : _affektion*
#  11:    2 : _ähnlichkeit*
#  12:  236 : _akt*
#  13:  683 : *akt*
#  14:   14 : _aktion*
#  15:   71 : _aktiv*
#  16:   48 : _aktivität*
#  17:    0 : _aktqualität*
#  18:    4 : _aktualität*
#  19:   67 : _aktuell*
#  20:    2 : _algebra
#  21:    5 : _alleinheit*
#  22:  315 : _allgemein*
#  23:   55 : _allgemeinheit*
#  24:   27 : _allheit*
#  25:   56 : _alltäglich*
#  26:    1 : _allzeitlich*
#  27:    0 : _als-ob
#  28:    0 : _alter ego
#  29:  130 : _an sich
#  30:   12 : _analogon*
#  31:   39 : _analyse*
#  32:    4 : _analysis*
#  33:    6 : _analytik
#  34:   12 : _analytisch*
#  35:  116 : _anderer*
#  36:   80 : _anfang*
#  37:    5 : _anfänger*
#  38:    9 : _animalisch*
#  39:   13 : _anonym*
#  40:    0 : _anormal*
#  41:    0 : _anormalität*
#  42:    3 : _anschauen*
#  43:    7 : _anschaulichkeit*
#  44:   59 : _anschauung*
#  45:    9 : *anschauung*
#  46:   32 : _an-sich
#  47:    1 : _ansichsein
#  48:    7 : _anthropologie
#  49:    0 : _anthropologismus
#  50:   18 : _antizipation*
#  51:    1 : _anzahl*
#  52:    1 : _anzeichen
#  53:    4 : _anzeige*
#  54:  129 : _apodiktisch*
#  55:   27 : _apodiktizität*
#  56:    0 :  apophansis*
```

画面 6

ALPHABETICAL TABLE OF KEY WORDS FOR SEARCHING

Please click on the initial of key words whose data you would like to retrieve!

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j
k	l	m	n	o
p	q	r	s	t
u	v	w	z	

データベースの入口（Japanese）へ戻る
Back to the gateway page of the Database (English)

画面 7

LIST OF KEY WORDS FOR SEARCHING (A)

_a priori	_abbild*	_abschattung*	_absolut*	_abstraktion*
_abstraktions*	_abwandlung*	_adäquat*	_adäquation*	_affektion*
_ähnlichkeit*	_akt*	*akt*	_aktion*	_aktiv*
_aktivität*	_aktqualität*	_aktualität*	_aktuell*	_algebra
_alleinheit*	_allgemein*	_allgemeinheit*	_allheit*	_alltäglich*
_allzeitlich*	_als-ob	_alter ego	_an sich	_analogon*
_analyse*	_analysis*	_analytik	_analytisch*	_anderer*
_anfang*	_anfänger*	_animalisch*	_anonym*	_anormal*
_anormalität*	_anschauen*	_anschaulichkeit*	_anschauung*	*anschauung*
_an-sich	_ansichsein	_anthropologie	_anthropologismus	_antizipation*
_anzahl*	_anzeichen	_anzeige*	_apodiktisch*	_apodiktizität*
_apophansis*	_apophantik*	_apparenz*	_apperzeption*	_apperzeptiv*
_apperzipier*	_appräsentation*	_appräsentativ*	_appräsentier*	_apprehension*
_approximation	_apriori	_arbeit*	_arithmetik	_art*
_aspekt*	_assertorisch*	_assoziation*	_assoziativ*	_ästhetik
_auffassung*	_auffassungs*	_aufklärung*	_aufmerksamkeit*	_aufweis*
_ausdehnung*	_ausdruck*	_auslegung*	_aussage*	_ausschalt*
_ausschaltung*	_außenhorizont	_ausweis*	_autonomie*	_axiologi*

_axiom*

Back to the ALPHABETICAL TABLE OF KEY WORDS FOR SEARCHING

画面8

```
#  1:S:   25 items        _a priori

I. DIE KRISIS DER WISSENSCHAFTEN
II. DIE URSPRUNGSKLÄRUNG
                 02908 02914 03019 03309 03337 03402 03413 03427 04112
                 05619
III. DIE KLÄRUNG
 A. DER WEG VON DER VORGEGEBENEN LEBENSWELT AUS
                 10509 13812
 B. DER WEG VON DER PSYCHOLOGIE AUS
ERGÄNZENDE TEXTE
A. ABHANDLUNGEN
 REALITÄTSWISSENSCHAFT
                 28221 28233 28307 28315
 NATURWISSENSCHAFTLICHE
 DIE KRISIS
B. BEILAGEN
 BEILAGE I
 BEILAGE II       36238 36310
 BEILAGE III      37538 38133
 BEILAGE IV
 BEILAGE V
 BEILAGE VI
 BEILAGE VII
 BEILAGE VIII
 BEILAGE IX
 BEILAGE X ·      42226
 BEILAGE XI
 BEILAGE XII
 BEILAGE XIII
 BEILAGE XIV
 BEILAGE XV
 BEILAGE XVI
 BEILAGE XVII
 BEILAGE XVIII
 BEILAGE XIX
 BEILAGE XX       46831
 BEILAGE XXI
 BEILAGE XXII     48020
 BEILAGE XXIII    48319
 BEILAGE XXIV
 BEILAGE XXV
 BEILAGE XXVI
 BEILAGE XXVII    50619
 BEILAGE XXVIII
 BEILAGE XXIX
```

このような新しい公開方法は、実を言えば、苦肉の策として生まれたものである。つまり、これまでの検索結果のデータを公開するという方法については、以前からその不十分さを感じており、旧稿でも、将来的にはＣＧＩ（Common Gateway Interface）を使って、利用者が自由に検索語を入力すれば、検索結果が返ってくるというシステムを導入したい、ということを書いてきた。しかし、残念ながら、静岡大学情報処理センターの大型計算機ではセキュリティの

問題からＣＧＩの使用を認めてもらえない。他に独自のサーバーを構築することも検討してみたが、いろいろな学内事情から先送りになってきた。そんな状況のなかで、いまの環境のなかでできるだけ利用者の要求に応えることができるものを検討した結果が、上述のように検索語を可能な限り増やし、WWWのリンク機能を最大限利用するという方法であった。苦肉の策ではあったが、利用者の要望には充分に応えることができるものになったと思う。

（４）フッサール研究日本語文献

最後に、これも旧稿ですでに簡単に予告しておいたことであるが、和田渡氏（阪南大学）が数年かけてこつこつと収集して来られた「フッサール日本語文献（1915～1997）一覧」が、とりあえず暫定的なものであれ姿を整え、今回、フッサール・データベースと並べて公開の運びとなった。これは、「1915年から1997年までに日本で発表されたフッサールに関する、論文、著者名、表題（書名）、雑誌名（出版社名）、発行年月日、頁数」を記録したものである。これは同氏ならびに協力者達の献身的な努力の成果であり、この一覧がフッサール・データベースと並んで、私たちフッサール研究者の共有財産となることによって、日本におけるフッサール研究の進展に貢献することを関係者ともども切望するものである。大いに活用いただければ幸いである。

おわりに

以上で紹介してきたフッサール・データベースのホームページは現在、旧稿でも紹介したように、世界中の研究者からアクセスを受けており、国内および国外で開設されている哲学関係のサイトからもリンクを張られるようになっている。

因みに、旧稿でも述べたように、ホームページそのものにアクセスを受けた回数を表示するカウンターをつけていないが、ftpについてはログを取ることができるようになっている。つまり、ホームページがどれだけアクセスされているかは不明であるが、そこから入ってフッサール・データベースのデータそのものをどこの国のどれだけの人がダウンロードしていったかは分かるようになっている。それによれば、昨年４月１日から今年３月31日までの１年間で、総数が2,203件あった。その内訳を国別で示すと、日本が1,171件、ドイツが584

件、アメリカが217件、フランスが88件、スイスが24件、カナダが14件、デンマーク、韓国、イタリア、アルゼンチンが各11件、イギリスが9件、ハンガリーが7件、オーストリアが6件、チェコが5件、オランダ、ベルギー、ロシアが各4件、オーストラリア、ギリシア、ポルトガル、フィンランドが各3件、ノルウェー、シンガポールが各2件、スウェーデン、スペイン、ポーランド、ブラジル、チリ、スロバキア、リヒテンシュタインが各1件、であった。これらはデータをダウンロードして行った件数なので、ホームページを覗いて行っただけという件数はこれよりはるかに多いと考えられる。

また、フッサール・データベースでは、しばしば利用する人のために、データ更新などのお知らせをするからと利用者登録を勧めている。現在までに、この利用者登録をしている人の内訳を同様に国別で示すと、日本が23件、アメリカが17件、ドイツが6件、スイス、デンマーク、ブラジルが各2件、ロシア、ポーランド、メキシコ、イギリス、ユーゴスラビア、カナダ、イタリア、ギリシア、エストニア、ブルキナ・ファソが各1件あった。こうして見ても、フッサール・データベースの価値が国際的に認められてきていることが分かるであろう[20]。

そして最後に、いまは詳しく挙げることはできないが、このデータベースを利用した研究も少しずつ現れてきている。フッサール・データベースはますます成長・進化していく。大いに活用していただきたい。

注

(1) T・コルボーン、D・ダマノスキ、J・P・マイヤーズ著『奪われし未来』翔泳社、1997年9月。もう一冊話題になっている本として、デボラ・キャドバリー『メス化する自然――環境ホルモン汚染の恐怖――』集英社、1998年2月。

(2) 日本でも、若者の精子を調べたら、正常なのは34人に1人であった、という報告もある。朝日新聞（1998年3月9日）参照。ほかにも、とりわけ1998年2月に入って連日のように朝日新聞で報道されている記事については、インターネットの「はまうず・ホームページ（http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/ningen/hamauzu/hamauzu.html)」の「その他の関連する研究活動」の「学内プロジェクト」の箇所を参照いただきたい。

(3) 立花隆・笹尾敬子「環境ホルモンは人類を滅ぼす」（『中央公論』1998年4月号）を

参照。他にも、長山淳哉『ダイオキシン汚染列島日本への警告』（かんき出版、1997年9月）などを参照。

(4) これは、立花隆が平成9年10～10年2月に東京大学教養学部のゼミ「調べて書く、発信する」における企画として「奪われし未来」の輪講を行った際の、学生達のレポートに掲げられた問題提起である（http://www.komaba.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cta-kasi/osf/index.html を参照）。

(5) 前掲立花隆・笹尾敬子対談、および、立花隆講演「人類を蝕む環境ホルモンの恐怖」（1997年11月）参照。

(6) 井口泰泉「そんなに危険か環境ホルモン」（『文藝春秋』1998年5月号）参照。

(7) 前掲立花隆・笹尾敬子対談参照。

(8) 『脳死』（1986年、中央公論社）、『脳死再論』（1988年、中央公論社）、『脳死臨調批判』（1992年、中央公論社）、『臨死体験　上・下』（文藝春秋、1994年）、『脳を究める』（朝日新聞社、1996年）。

(9) この辺りを突いているのが、例えば、柳田邦男『犠牲サクリファイス』（文藝春秋、1995年）や小松美彦『死は共鳴する』（勁草書房、1996年）である。

(10) 例えば、立花が、「同胞の死を嘆き悲しんだり、死者を埋葬したりするのは、あらゆる動物の中で、人間だけである」と書き始める「死と死体」という文章（前掲『脳死臨調批判』第一章）は、そういう問題への繋がりを暗示しているのに、立花はその問題をそれ以上に探究しようとはしていない。

(11) 実際、立花自身、前掲『脳を究める』の中でも、「自分自身とは何か、あるいは人間の主体的な内的世界はどのようにできているかという問いのほうは、心理学や精神分析学はあるけれども自然科学の達したレベルにはまだまだ達していないという状況にあります。現在の脳科学ではまだまだ手つかずの状況ですが、このような内的世界の解明に取り組んで初めて本当の意味での脳科学になるのではないでしょうか」（20頁）と述べている。ところが、「心の病」のうち、「心因」や「内因」と呼ばれてきたものの多くは、まさにこの内的世界の問題と思われるのである。

(12) 「脳と心」をめぐるさまざまな考え方については、例えば、原田憲一「脳と心」（宇沢弘文ほか編『岩波講座　転換期における人間3　心とは』岩波書店、1989年）を参照。

(13) 「心ないし精神の病」を「脳の病」とする考え方は、それこそ古代ギリシアのヒポクラテスから始まって、19世紀後半のグリージンガーに至るまで綿々と続いている一つのとらえ方であって、現代における脳科学の発達によって突然出現した新しいものではないことについては、神谷美恵子「精神医学の歴史」（『異常心理学講座7　精神病理学1』みすず書房、1966年）を参照。

(14) アービング・I・ゴッテスマン『分裂病の起源』(日本評論社、1992年9月)も、「分裂病の病因として、遺伝的な素地がまず必要で、それになんらかの環境要因が引き金になって発症する」(監訳者あとがき)と考えている。脳内の異常については、「分裂病者の脳内に、化学的、物理学的ななんらかの異常が起きていることはわかっているが、しかしそれがどういったことなのかわからない」(25頁)というのが、現状である。しかし、ゴッテスマン自身の姿勢は、「目に見えない『遺伝因子』を一つの信仰として受入れ、自分たちのモデルが分裂病に関する観察事実を説明できるのだという確信を支えとして、忍耐づよく神経科学の進歩を待つことが必要なのかも知れない」(278頁)という、身体的原因への信念を強くもつものである。

(15) 現在の時点では、薬物療法は精神分裂病を治癒するものではないようである。「抗分裂病薬には意識を正常に保ちながら分裂病の急性期の症状を除くという選択的効果がある。これで分裂病は治るかというと、そうではない。・・・現在の薬物療法は対症療法であるが、それによって病気が自然に治癒するまでの間、症状を軽減し、症状の結果招来される自傷、他害などの困った行動から患者や周囲を守るのにも有効である。」(柿本泰男「からだと心――物質からみた心の病い――」、『岩波講座　精神の科学1　精神の科学とは』岩波書店、1983年、所収)

(16) 私は現在、「人間学各論V」という講義(1998年度前期)で、「〈こころ〉の病と現象学」というテーマで話をしているが、これをもとにして、小論を準備しつつあるので、そちらに譲りたい。

(17) 拙稿「フッサール・データベースについて」(人文論集、第46号の1、1995年)、「インターネットを利用した哲学研究のために――フッサール・データベースの新段階――」(人文論集、第47号の1、1996年)、「峠を越えたフッサール・データベース――インターネット時代のマルチリンガル・テキストのために――」(人文論集、第48号の1、1997年)。

(18) 前掲拙稿およびフッサール・データベースのホームページを参照。

(19) 前掲「インターネットを利用した哲学研究のために」参照。

(20) 利用者登録の際にコメントを書いて頂くようにしているが、そうして受け取ったコメントをいくつか紹介しよう。

① アメリカのResearcher／resident scholar より

"I am quite impressed with your Husserl database, and I support this effort. Thank you for making this work available to a world audience!"

② ユーゴスラビアの利用者より

"I'll be very gratefull if you allow me to use Husserl data base because here in Yugoslavia I do not have mentined Husserl writings. Your Web-

Site is one of the best phenomenological sites on Internet, because it helps to get current information about phenomenological research and also provides to read parts from original Husserl works."

③ アメリカのAssistant Professor of Philosophy より

"The development of a Husserl Database is exciting to me. I want to hear more about its eventual connections with the various extant Husserl Archives in Louvain, Germany, New York, Paris. Also the Japanese project is news to me and I look forward to reading about its progress and concerns. I note that the description of Husserl's work found at that site concentrates on the phenomenology of number as found in the L.U., and the Ideen I and II. Information relevant to the *Crisis* and the later works is welcome too."

(追記)

小論脱稿後、文部省より連絡（5月12日付）があり、それは1998年度についても申請していた科学研究費（データベース）について、「本年度の補助金の対象とならないことになりました」という通知であった。本文にも書いたように、計画の3分の2をすでに完了し、あと2年間で全巻すべてのデータが揃い、完成するという段階になって補助金の給付を打ち切りにするという文部省の決定に対しては、学問研究の共通基盤を形成しようという私たちの意図への無理解として、遺憾に思わざるを得ない。これまで補助金のほぼ9割を謝金として作業を進めてきたが、この謝金がなくなるとなれば、残る3分の1をボランティアのような形で果たして継続できるか、それともどこかから別の形で補助金を得られるかどうか、それとも私たちの計画はこのまま頓挫してしまうことになるのか、いま私たちの作業は曲がり角に立たされることとなった。文部省から連絡が出されたのとちょうど同じ日付の新聞の朝刊に、「環境庁はダイオキシンと環境ホルモンについて、大がかりな全国一斉調査を行うことを決め、補正予算案で33億円が認められた」との記事が載った。もちろん、私たちの補助金が削られたことと直接関係あるわけではなかろうが、小論を環境ホルモンの問題から始めた私にとっては、何か象徴的な同時性に思われる。因みに、私は昨年度から動き始めている教育研究学内特別研究採択プロジェクト「生物（人間）－環境システムの動態に対する環境変動の影響」に参加しているが、そこでの中心テーマも環境ホルモンの問題である。これについても、その一端はすでにインターネットで公開しているが（http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/ningen/hamauzu/related/gakunai.htm)、詳しくは別稿で論じることになろう。